

# NEWS LETTER 55

2015  
VOL. TAKE FREE

News Letter

Vol.55

2015年4月29日発行



マンガ領域卒業生！  
南貴大さんが「少年マガジンR」で連載スタート！

在学生 Interview!!  
藤代実咲さん

NEWS LETTER 編集委員が行く！  
新宿“まち”歩き

教授 Interview！  
渡邊哲意 准教授

リレーマンガ  
『私達の大学生活はまだ始まったばかり。』

宝塚大学 東京新宿キャンパス 東京メディア芸術学部 | 大学院 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7丁目11番1号  
TEL:03-3367-3411 FAX:03-3367-6761 E-Mail:tokyo@takara-univ.ac.jp

## なりたいたいわたしに近い大学。

都心のキャンパスだから  
発信する場がいっぱい！

社会に  
近い。



先生は第一線で活躍する  
現役クリエイター

教員に  
近い。



各沿線の新宿駅から  
歩いてすぐ

新宿駅に  
近い。



各沿線  
新宿駅から  
徒歩約5分！

### 学びの特徴

現役クリエイターによる指導のもと、領域の枠を超えて学べるカリキュラムで一人ひとりに合わせた学びを実現！

POINT 1

現場で生きる教育を実践  
先生＝クリエイター

POINT 2

+αの学びが力になる  
選べるカリキュラム

POINT 3

きめ細やかな対応が可能  
少人数制の授業

### SCHEDULE オープンキャンパス年間スケジュール

5/30 土 10:00～15:00  
6/21 日 10:00～15:00  
7/12 日 10:00～15:00

7/26 日 10:00～16:00  
8/2 日 10:00～16:00  
8/22 土 10:00～16:00

夏のオープンキャンパス

### 進学相談会

13:00～16:00  
10/31 土  
12/5 土  
2016  
1/30 土

### ACCESS アクセス



- JR「新宿」駅（西口）から徒歩約5分
- 小田急線「新宿」駅から徒歩約5分
- 都営大江戸線「新宿西口」駅から徒歩約3分
- 京王線「新宿」駅から徒歩約5分
- 地下鉄丸の内線「新宿」駅から徒歩約4分
- 都営新宿線「新宿」駅から徒歩約5分
- 西武新宿線「西武新宿」駅から徒歩約4分



# マンガ領域卒業生!南貴大さんが「少年マガジンR」で連載スタート!



## 「まじめ系クズの日常」

## PROFILE

南貴大  
(PN: ナンキダイ)

1991年3月9日 生まれ  
浦和学院高校出身  
原稿歴10年、まじめ系クズ歴24年のエキスパート。  
人生で初めて「少年マガジンR」での連載が2015年4月よりスタート。

少年マガジンR  
講談社より新創刊される漫画雑誌。4月20日に創刊号が発行され、その後偶数月の20日に発売。マガジンRのコンセプトは「怒り」。「どうしようもなく動かしがたい現状」に対する反抗であり、創造や変化への強烈な希求となる「怒り」をフィクションやファンタジーに詰め込み、心に迫る物語を発信するという。



個性の世界だから、性格もすぐく出る。  
内面を描いていくのが漫画の世界だと思う。

いつから漫画を描きたいと思っていましたか??

小学生のときから4コマ漫画を描いてましたね。姉が絵をよく描いていてその影響が大きいかもしれません。ギャグ漫画ばかりでシリアスなのは全然描けないんです。最初は鉛筆で下手なりに描いていて、そのあと中学、高校に入ってインクをつかったペンに出会い、大学に入ってからデジタルで描くようになりました。アナログからデジタルが変わって、ペンタブで描くようになって。

ドラゴンボール、少女漫画、父が読んでいた漫画とか、家にあった本を無差別に読んでいました。それでも、描くのは好きだけど、読むのはそんなに多くなかったと思います。

宝塚大学を選んだ理由は??

高校は埼玉にある浦和学院の普通科の美術コースに入学して、漫画研究会に入りました。実は姉も浦和学院で、大学も宝塚大学で一緒だったんです。高校選んでも大学選んでも、「絵が描ける環境づくり」を意識していました。姉が宝塚大学に行っていたこと、この新母校自体がまだ新しく、新しいことをするにはすごい魅力がありました。伝統の中で学ぶのではなく、「伝統をつくる側」に居たいと思ったんです。在学中は、漫画ばかり描く環境でもなく、自治会やったり、たくさん先生のたちがいてデジタルもすべておもしろかった。漫画だけじゃない、人間力をつけるのにとってもいい環境でしたね。



マガジンRに掲載されるまでの道のりは??

在学中に、少年ジャンプのGカップショートギャグ漫画コンテストに応募しました。そこで入賞して、集英社の担当編集者さんがつくようになったんです。読み切り漫画を描いて、コンペに出して、入選しないとデビューできない。漫画の世界も1つ1つ階段を上って行かないといけないんです。そんな中、第1回 World MANGA Contestに応募したのがキッカケで、それが漫画部門で特別賞グランプリになったんです。編集者と漫画家をマッチングするのが目的のコンテストでグランプリになったことで、たくさん出版社から依頼をもらえることができました。

その中でも、講談社で「絶望先生」の担当編集者だった方ととても話が合ったのと、少年マガジンRという雑誌は新創刊ということもあって、連載をスタートすることに決めました。

これからの人生は??

とにかく念願の漫画連載がスタートするので、隔月の作品づくりをがんばるのみです。1年経てば単行本が出るかもしれないし、今はひたすら漫画を描くこと。

これから漫画家を目指す方に一言!

マンガ領域の人は、とりあえず原稿をたくさん描くことをオススメします。ダメな作品をたくさん描くことで、いざ良い作品ができたときに納得できる自分があるんです。そして、その作品をどんどん発表することも大事。漫画を描ける環境は用意されていると思うので、自分と向き合ってたっくさんの作品を残していったほしいと思います。

# 在學生 Interview!!



タイトル：眠りと夢  
使用画材：アクリルガッシュ  
大きさ：30×30cm

宝塚大学イラストレーション領域の作品集「ギリシャ神話」に参加、掲載した作品。  
雑誌、イラストレーション 2015年3月号 No.205 に掲載。  
ギリシャ神話に出てくる眠りの神、ヒュプノスをモチーフに描いています。

——いつから絵を描き始めたのですか？

絵を意識したのは幼稚園のときからです。外遊びより絵を描いている方が多い子供でした。小学生も中学生も、落書き程度ですが手を動かして描くことばかりしていました。

中学を卒業して、高校の進路を考えたときも、やっぱり絵が描ける環境を求めていたので、晴海総合高校に入りました。芸術系のコースに入って、毎日思いつくままに絵を描いていましたが、高校時代に出会った女の子がめちゃくちゃデッサンが上手かったんです。落書きも、輪郭を描かずに一発でうまく描ける。パランスがとてつもなくきれいで、鉛筆のタッチも美しい。衝撃でした。

それからはその人に憧れて、デッサンをがんばるようになりました。とにかく人物クロッキー、基礎的なデッサンを一通り経験し、下手ながら一所懸命に模索しました。彫刻とか、立体ものより描いている方が楽しかったですね。

——なぜ宝塚大学に入学したのですか？

高校の進路課題で大学を見てききたい、という宿題が出たんです。絵

を描ける環境で名門学校を見たのですが、専門学校よりも長く絵を描けそうだとということで、4年制の大学を見てました。ちょうどそのとき、オープンキャンパスで北見先生のイラストレーションの授業を受けたのがキッカで宝塚大学の入学を決めました。圧倒的な絵の世界観に感動したので覚えています。

——入学してどうでしたか？

迷わずイラストレーション領域に入りました。高校に比べてとにかく課題が多かったです。入学当初、名門美術大学に入学した友達もいて、情報交換をする中で「スタートラインは一緒だからがんばろう」と言われて、私も宝塚で1番になるつもりでがんばろうと思いました。絵を描く環境はあるし、先生との距離も近く、くくでも学べると感じました。たくさん課題が出ましたが、提出のメ切りはゼットイ守る！と自分と約束していました。4年間のうち、風邪で1回だけメ切を逃したのが悔しいです。

絵を描く上で意識していることは、ほかのひととの差別化、独創性を考えること。イラストレーション領域は4年間クラスが一緒だったので、友達の作品性やこだわりもわかりま

す。自分とどう違うのか、表現の仕方をも模索していました。

——宝塚大学のよいところは？

先生との距離が本当に近くて、間近で技術や知識を付けられることです。

ある年、先生から夏休みに課外活動を依頼されお手伝いさせていただきました。学外とかかわって、自分のスキルを試して世の中に発表する場を与えられたことはとてもよい経験です。「新宿クリエイターズ フェスタ2013」の出演アーティストの作品を展示するインフォメーションデザインを担当したことは大きな自信に繋がっています。

やる気があればチャンスは多い大学ですし、評価もされやすい。先生との距離も近いので、つくって直して、のスピードも早く成長している実感を感じられます。領域も多岐にわたるので、領域との横断やメディアミックスしやすいのも特徴ですね。

——これからの人生は？

4年間の学生生活のあと、院生になることを決めました。同級生たち

会人になった分、作品づくり、コンペの応募も積極的にやっています。最後の学生生活を研究、やりたいことへの追求に充てたいと強く思っています。今年「アートコンプレックスギャラリー」のデザイン&アートフェアの審査が通って絵の展示、販売が6月にあるので楽しみです。

——将来の夢は？

イラストレーターとして、装幀家としても働きたい。サービスマンとか事務とか、自分には向いていないと自覚できたので、絵やデザインの世界で生きていきたいですね。

私は大学に入ってから自分の絵の方向性が決まってきました。自分らしい作品をつくるにはたくさん刺戟とコミュニケーションが必要だと思っているので、興味のあるものほとんどを体験して、探してみることをオススメします。基礎はたくさんあっても余るものじゃないから、デッサン、クロッキーなどとにかく描いてみる。必ず自分の好きなものや、周りと違った作品性が見えてくると思います。

## 藤代さんが参加するEvent

### 「ACT ART COM – ART & Design Fair 2015」

http://www.actartcom.com  
【主催】NPO法人 ACT ART COM 実行委員会  
【会場】The Artcomplex Center of Tokyo (ACT) 全館  
【開催日程】2015年6月18日(木)～21日(日)4日間

## Profile



**藤代 実咲**  
1992年6月11日生まれ。  
東京都板橋区在住。  
2011年：都立晴海総合高校 (芸術・文化系列) 卒業  
2015年：宝塚大学東京メディア・コンテンツ学部 メディア・コンテンツ学科 卒業  
現在、メディア・造形研究科 修士課程1年。

## アダムとエヴァ(ジュンカムタン)



都庁の都民広場に設置してある「アダムとエヴァ(ジュンカムタン)」は、都民広場にある数体の像で唯一色彩が施されており、目を引きまします。現地へ行くと想像以上に高さがあり、それは一階の天井部に届く程の高さがありました。

この作品は彫刻家である池田宗弘さんが制作した作品で、1991年に都民広場に設置されました。真鍮鍛造(しんちゅうたんぞう)という銅などの素材で作られており、金のリングが輝く魅力的な作品です。



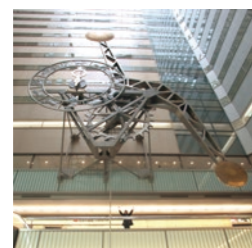
## TENTOMUSHI

都庁の第一庁舎と第二庁舎の間の通路に鎮座しているてんとう虫のオブジェ。写真で見るときはもつと小ぢんまりしていると思っていたのですが、実物は意外と大きくて驚きました。他に都庁にある彫刻などの美しいパブリックアートと比べて、カラフルで可愛い雰囲気でした。

制作者は宮本信夫さんという方です。HPのギャラリーには様々な立体作品や美麗な植物の絵などがありましたので、そちらも合わせて楽しんでみてはいかがでしょうか。



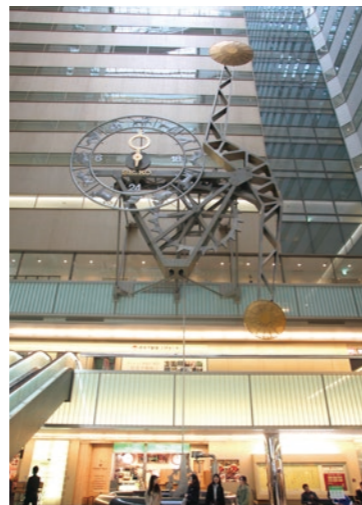
## ユックリズム振り子時計



こんなに大きい!

この新宿NSビルにある『ユックリズム振り子時計』はかつて世界一大きな振り子時計としてギネスブックにも載ったことがあり、高さ29.1m、振り子の長さ22.5m、文字盤の直径7.2mの大時計です。

時計下にある動力の水車やゆっくり動く振り子を間近に見ると、大きさも相まってかなりの存在感を放っています。文字盤も十二支になっていたりギミックも細かいので、一度は是非見に行ってみると作品作りの参考になるかもしれませんよ!



## LOVE



新宿アイランドタワーの入り口にあるのは『LOVE』のオブジェです。

アメリカの芸術家ロバート・インディアナが彫刻したもので、テレビドラマにも登場する事も多く有名なスポットです。

なんとこのオブジェ、様々な色使いや言語を用いたバージョンがあり、アメリカ、スペイン、台湾、カナダなど国外にも設置されているとか。なんだか不思議な気分になりますね。ビルの中で一際目立つ鮮やかな赤が私達の目を楽しませてくれます。



# 新宿 ART

宝塚大学がある新宿は、アート、広告、メディアの『まち』。歩いていけばたくさんのもが目に入ってきます。

# まち歩き



NEWS LETTER 編集委員が行く!

# 教授 Interview!

渡邊哲意 准教授



## 渡邊哲意准教授プロフィール

宝塚造形芸術大学大学院メディア・造形研究科博士課程修了。博士(芸術学)。大学院在学中に映画「ウルトラマンゼアス2」光線CG制作チームに参加。映像製作のほか、音楽関係のグラフィックデザインを多く手がけ、2004年京都高台寺春の特別拝観ライトアップにて「四神相応」演出映像を担当。2008年「北京パラリンピック特別番組」日本福祉放送 映像技術ディレクター・レポーター。2014年「建長寺 鎌倉夜会 D-K LIVE」プロデューサー・ディレクター等。



2014年8月にプロデュースした鎌倉・建長寺D-K 撮影：黒岩龍一

## 常にテーマは「活性化」 学内では学生、 学外では自分。

僕の学内での役割は、まずコンテンツデザイン領域の担当教員とメディア芸術学科学科長補佐。あとは学生委員長もしています。この学生委員会というのは、宝塚大学に通う学生たちにより良い大学生活を送ってもらうための学内組織です。勉強やそれ以外のことで、もったこんなことをして欲しいという学生の要望を検討して、充実した大学生活を送れるように環境を整えることが主な活動になります。

入学して実際に大学生活が始まってみると、教育のギャップって思うのかな？もっと違うことを学んでみたいって思うようになる学生も居ます。そこで、元々はマンガ、アニメ、ゲームなどが好きで入ってきた学生たちが、その

場所でもう少し自分の将来を設計できるように、大学に提案してコース制を領域制にして学びの選択を広げました。

他には学生の自治会やサークルの充実ですね。大学は授業を受けるだけの場所じゃないので、学生の私生活も含めてケアをする。この大学は新入生歓迎会、七夕ライブ、大学祭、ハロウィンパーティー、クリスマスパーティーなど、とてもイベントが充実しています。そのイベントを盛り上げることも僕の役割の一つです。高校生の感覚ではなく、大学生だともっとすごいことができる気がしてもらいたい。色々な照明・音響・映像機材などを使ってわくわくさせる。わくわくしてくると学生側から、もったこんなことがやりたい！という声が始まってきます。せっかくなのでクリエティブな大学に入ったのだから、どんどん色々やって欲しいんですよ。どうすれば学生からアイデアが生まれてきて活性化するか。それは理屈で説明するより、感覚的なものの方が伝わりやすいと思います。音や照明、映像など、感覚的なもの、技術的なもの、今まで自分では得ることのなかった刺激を与えたい。

だから学生委員長というのは、学生が自分から活性化するためのヒントを与える役割なんじゃないかと思うんですよ。学生がどんなことを考えているかということには、常にセンサーを張っています。

学外での活動で一番行っているのはデジタル

ル掛け軸(以下D・K)ですね。基本的には今流行りのプロジェクトマップのようなものなんです。プロジェクトマップとD・Kの違いは、エンターテインメントなのかアートなのかというふうに分けるとわかりやすいかもしれません。エンターテインメントは具体的な内容表現をすることで感動や驚きを与えることが多いのですが、アートは見る人次第。鑑賞者の感性と作品のシンクロで、見た人の中に意味を見出していくものだと思うんですよ。D・Kにもそういう要素があって、

映したされた絵を見るのではなく、そのものが存在する環境を感じて欲しいんです。技術的にはプロジェクトマップと一緒なんですけど、目的が違うんですよ。そういう活動は人の気持ちを動かすという点で、先ほどの学生を活性化させるということにも通じると思います。

今は映像やデザインなど美術系の仕事をしていますが、僕の感性のルーツは音楽なんです。中学校から吹奏楽をしていましたが、演



賛助で吹奏楽団の演奏会にも参加。

奏するとき映像をイメージしていると、音色とか響きが違うんですよ。昔から自分の中で、音と映像はリンクしていたんですよ。

先ほど学生の活性化という話をしましたが、僕自身の活性化は作品制作はもちろんなんですけど、音楽を演奏することなんです。高校時代には吹奏楽の日本代表で海外遠征した経験もあり、演奏する楽しささからだが覚えているんですよ。演奏って全身使っちゃいます。運動でもあるし。耳で感じる言語じゃない音の信号のようなものを体で感じないと、自分が活性化されないんです。そういうことをしていないと、感性がどんどん潰れていく気がしちゃいますよ。

D・Kで言えば、現場の状況や天候によって見え方が全然変わるので、ある意味演奏で言うリアルタイムセッションです。D・Kのように社会の中で人と関わり合うことによって、自分の立ち位置を確認しながら自身の活性化をしています。こうやって世の中の流れの中で、自分の感性や意識を活性化させることだけはサボれないんですよ。

学外でやっている自分の活性化があるから、学生の活性化もできるんじゃないかと思っています。

1 デジタル掛け軸(D・K)  
デジタルアーティストの長谷川章氏が考案した独創的なライブアップ手法。歴史的な建築物や雄大な自然などに映写して、幻想的な空間を作り上げる世界初のアートスタイル。

※この漫画は、宝塚大学の学生生活に基づいたフィクションであり、  
実在する人物などはほぼ関係ありません。

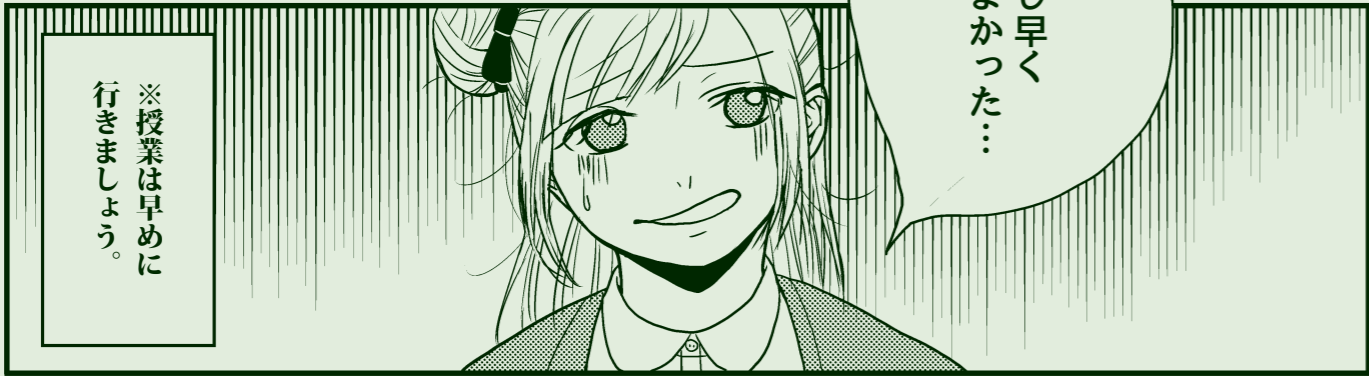


と、友達とか  
できるかなあ…

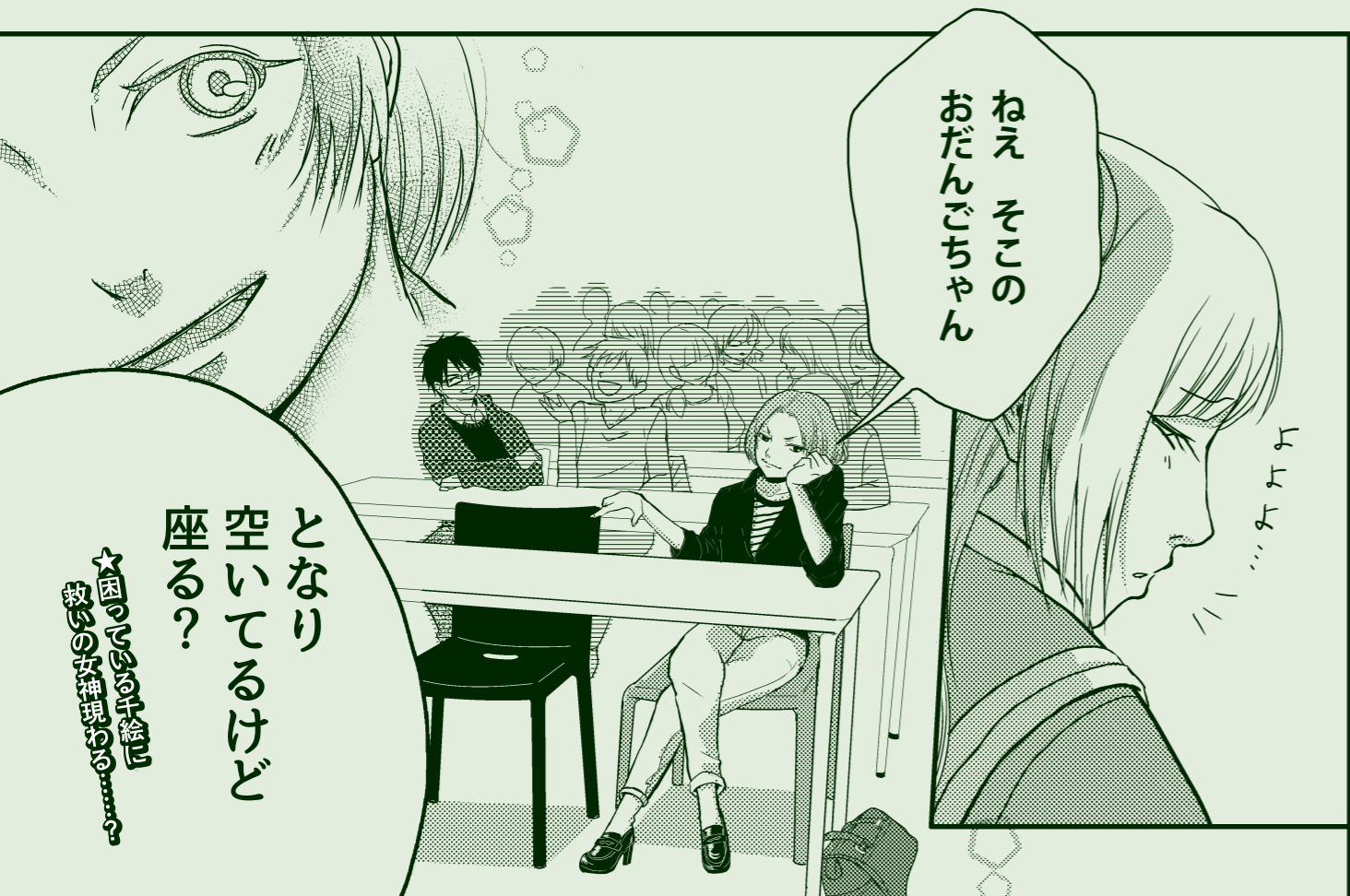
うげっ…  
座る場所ない  
じゃん…

1年前期必修科目  
**創造基礎**

もう少し早く  
来ればよかった…



※授業は早めに  
行きましょう。



ねえ そのの  
おだんごちゃん

となり  
空いてるけど  
座る？

★困っている千絵  
救いの女神現る……

# リレーマンガ

東京メディア芸術学部

## 第1話

作画担当: 駒野うみ(4年)

リレーマンガとは  
複数の人が順番に描いていく漫画の  
こと。  
この漫画では、月毎にプロットを編集  
者、作画を学生が担当しています。

# 私達の大学生活は まだ始まったばかり。

私も今日から  
いよいよ大学生  
なんだね  
ドキドキするなあ

それにしても、  
新宿みたいな都心に  
キャンパスがあるなんて、  
最初はびっくりしちゃった



宝塚大学 東京メディア芸術学部  
新一年生・マンガ領域

**新城千絵**



今日は2限からで、  
201教室ね

えーっと



## 高田美苗講師参加のグループ展「12星座展」が越谷のギャラリーで開催

イラストレーション領域の高田美苗講師参加のグループ展「12星座展」が越谷市のギャラリーKで開催されました(2015年4月13日～25日)。同展示は星座をテーマにしたグループ展で、高田講師は銅版画の作品4点を展示しました。



江川慎一郎	高田美苗
井上奈奈	筑間美里
岩崎有理子	ツリタニユリコ
打木	豊田紀雄
宇里香菜	中村あや子
尾場瀬裕一	野村知紗子
金子佳代	藤代京子
川瀬雅子	宝珠戸祥穂
菅野由貴子	丸山ゆき
クラミサヨ	三澤恵子
さいとううらら	宮崎聡子
しまたにあや	もとよしひろ
しんぞう	山崎智朝
象 ぞう 造	渡邊早苗

12星座展  
2015年4月13日(月)～25日(土)

Gallery K

## 卒業生、幸奈ふなさんの連載漫画『魔法使い候補生と魔王さま』単行本が5月9日に発売!

本学マンガ領域卒業生、幸奈ふな(ペンネーム)さんの連載漫画『魔法使い候補生と魔王さま』が5月9日に富士見書房から発売されました。

同作品は富士見書房のコミック雑誌『月刊ドラゴンエイジ』で連載されたもので、非モテに悩む主人公とそれを邪魔する幼女(魔王)のファンタジー学園ラブコメです。

### あらすじ

ネトゲではみな憧れる大勇者様!! しかし、実はニートの兄・信治をもつ高校生の春田雷吾は、兄のようになるまいと「高校デビュー」&「リア充」を目指すのだが!?! ちょっとHな学園ファンタジーラブコメ☆



## AnimeJapan2015に出展

# HOT TOPICS

アニメーション領域が3月21日から22日まで東京ビッグサイトで開催された「AnimeJapan 2015」にブース出展しました。

AnimeJapan (アニメジャパン) は2014年から毎年3月に行われており、日本を代表するアニメ関連企業・団体が集結するイベントです。

本学部は東京国際アニメフェアの時代から参加しており、今年で4回目の出展です。



## 卒業生、川上十億さんの連載漫画『ギグガキ』単行本が4月28日に双葉社から発売!

本学マンガ領域卒業生の川上十億(ペンネーム)さんの漫画『ギグガキ』が4月28日に双葉社から発売されました。同作品は双葉社の漫画Webサイト『WEB コミックアクション』で連載されたもので、エキセントリックな小学生バンドを描いた4コマ漫画です。



### あらすじ

川下ゆきち、小学4年生。一人の女の子との出会いが彼の日常をブチ壊す!?! 無軌道なこどもたちによる滅茶苦茶小学生バンド4コマ!!



Copyright (C) 2015 川上十億 / 双葉社 All Rights Reserved.

東京メディア  
芸術学部の  
これから!

## 5/30 オープンキャンパス

日時：5月30日(土)

【午前の部】 10:00～13:00 (受付9:30～)

【午後の部】 13:00～15:00 (受付12:30～)

会場：宝塚大学 新宿キャンパス

内容：ゲーム領域の講義や、自由に参加できるワークショップ、学生・教員による相談コーナーなどを設けています。



## 編集後記

宝塚大学東京メディア芸術学部が発行する「NEWS LETTER」。今号からリニューアルしました。いかがでしたでしょうか？この冊子をデザインしているのは、マンガ領域、イラストレーション領域の在学生4人。新宿を舞台に学びの場をもっと広く伝えたい。そんな想いで毎号制作していきたいと思っています。アート、メディア、カルチャーが詰まった新宿のまちで、思いつき表現していきます！



## NEWS LETTER 編集部

Editor 金澤英樹(本学職員)  
ミネシゴ(フリーライター)

Art Director 渡邊哲意(本学准教授)  
芦谷耕平(本学講師)  
小野寺真央(大学院1年)

Designer 有馬ゆずか(4年)  
河野真美(4年)  
高田佳奈(4年)  
中田亜花音(4年)

表紙イラスト 奈太(4年)  
リレーマンガ 作画 駒野うみ(4年)



## HOT TOPICS

## 2015年度 宝塚大学・大学院 入学式を挙行

2015年度の東京メディア芸術学部入学式を4月3日に挙行了。当日は学長式辞、新入生代表挨拶、また教員を代表して松本零士先生の挨拶などが行われました。ハイアットリージェンシー東京に大勢の入学生たちが集まり、新しい季節がやってきました。



## 北見隆教授の個展「散歩の季節」が大分で開催

イラストレーション領域の北見隆教授の個展「散歩の季節」が大分のアートギャラリー「デボラ」で開催されました(2015年3月28日～4月19日)。この展示は毎年行っており、今回で20回目となります。例年2月に行われていたこの展示ですが、今年は桜の時期の開催となりました。20回目記念ということもあり、北見教授も2日にわたってギャラリーに在廊いたしました。

